

授業科目名	パフォーマンスアート概論	担当教員	深澤 南土実 藤野 一夫 児玉 北斗 李 知映
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年第1クォーター		
講義内容	この授業の目的は、「パフォーマンスアート」についての視野を広げながら、その諸事例に生命的な脈絡を見出すことで、このアート（芸）に関する基礎的な理解を得ることです。授業の内容は、主に舞台芸術を扱い、身体文化史や現代のテクノロジー（AI・ロボット）、アートとの関わりにも触れながら進めます。ある存在が他の存在を意識して営む芸を、そのコンテクストとともに紹介・考察してゆきます		
到達目標	ある表現が「パフォーマンスアート」と言われるに際してのポイントや、諸事例の個性について説こうとする意欲を持つことができる		
授業計画	01：オリエンテーション【深澤】（【李】【児玉】【藤野】） 02：身体文化とパフォーマンスアート【深澤】 03：テクノロジーと身体（AI・ロボット）【深澤】 04：韓国の伝統芸能【李】 05：西洋を中心とした身体文化とパフォーマンスアート【深澤】 06：日本の身体文化とパフォーマンスアート【深澤】 07：パフォーマンスアートと映像【深澤】 08：パフォーマンスアートにおけるコラボレーション【深澤】 09：アートと身体【深澤】 10：復習と到達度チェック（授業内試験）【深澤】 11：北米や北欧の現代舞踊【児玉】 12：ドイツの楽劇【藤野】		
事前・事後学習	授業毎に指示します（事前・事後学習として週2時間程度）		
テキスト	特に指定しません		
参考文献	鈴木晶編著『バレエとダンスの歴史-欧米劇場舞踊史』（平凡社）、ボナヴェントゥーラ・ルペルティ『日本の舞台芸術における身体-死と生、人形と人工体』（晃洋書房）、徳井直生『創るためのAI：機械と創造性のはてしない物語』（ビー・エヌ・エヌ）ほか、適宜紹介します		
成績評価の基準	平常点 60%：毎回の授業中の様子や発言、およびリアクションペーパーの質をもとに判定 平常試験 40%：授業内試験		
履修上の注意 履修要件	初回のオリエンテーション時に授業の進め方や成績評価などの説明をします		
実践的教育	該当しない。		
備考欄	この授業は深澤と李、児玉、藤野のオムニバス（1-3,5-10が深澤、4が李、11が児玉、12が藤野の予定）です		

